

# 病害虫発生予察注意報第 10 号

佐賀県

作物名：タマネギ  
病害虫名：べと病



## 1) 注意報の内容

発生地域：県内全域  
発生量：平年より多い

## 2) 注意報発令の根拠

- 平成 28 年 3 月 8 日に実施した調査におけるべと病の越冬罹病株の発生圃場率は 81.3% であり、多くの圃場で発生が認められた。  
また、発生株率は 1.2% であり、前回調査(2 月 22 日、0.45%)に比べ増加し、多発生した前年(平成 27 年 3 月 10 日調査：発生株率 0.2%)よりも高かった(図 1、表 1、写真 1)。
- マルチ被覆及び露地タマネギとも越冬罹病株上に灰色～黒色の菌が分生胞子の形成が認められた(写真 2)。  
また、一部の早生品種圃場では、越冬罹病株からの伝染により生じた病斑(二次伝染による病斑)の発生が認められ(写真 3)、圃場内で伝染が進みつつあると考えられる。
- 3 月 8 日に福岡管区气象台より発表された九州北部地方週間天気予報によると、3 月 9 日から 15 日の降水量は平年並か平年より多い見込みであり、伝染の頻度が高くなりやすいことから、今後、発生がさらに増加することが予想される。

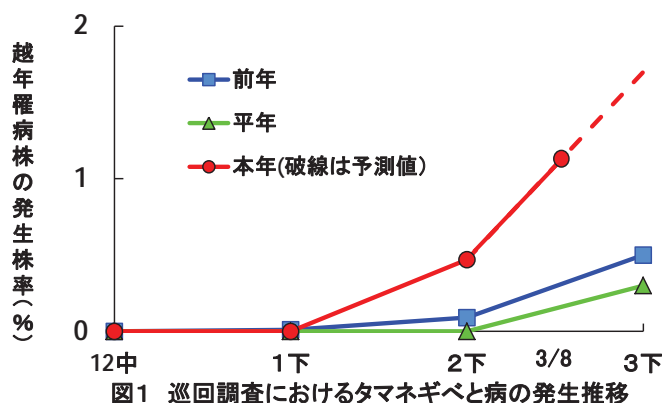


写真 1 露地タマネギで発生した越冬罹病株(平成 28 年 3 月 8 日撮影)

表 1 平成 28 年 3 月 8 日に実施した調査の圃場ごとの発生状況

マルチの有無	べと病越冬罹病株発生株率 (%)										平均発生株率 (%)
	圃場 a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	
マルチ被覆	11.0	1.2	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0		1.2
										圃場 j	
露地	1.9	1.8	1.2	0.5	0.5	0	0				

注 1) 各圃場(a~pの16圃場)の1000~2000株を調査



写真 2 発生株上に形成された分生胞子  
(平成 28 年 3 月 8 日撮影)

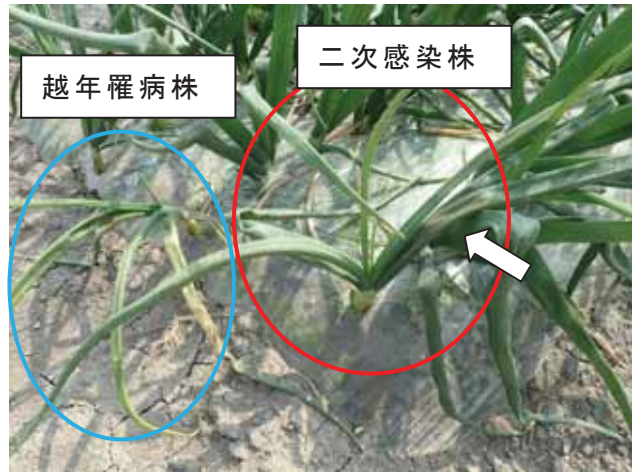


写真 3 越冬罹病株から伝染したと思われる病斑の発生(平成 28 年 3 月 8 日撮影)  
◀ : 発生した病斑

### 3) 防除上注意すべき事項

#### 【発生を認めている圃場】

- (1) **越冬罹病株**は好適な条件下で継続的に分生胞子を形成するため、圃場を経時的に観察し、抜き取って圃場外へ持ち出して埋めるか、ビニル袋等で密閉するなどして確実に処分する。
- (2) **薬剤散布を徹底する。**また、薬剤散布後においても、曇雨天が続くと新たな病斑を形成することがあるので、追加防除を実施する。
- (3) 早期に発生した発病株が伝染源となるため、栽培後半も防除を継続し、圃場内での発生を抑える。
- (4) 罹病残渣は圃場内に鋤き込まず、できるだけ圃場外に持ち出し、適切に処分する。

#### 【発生を認めていない圃場】

- (1) 中晩生品種では、今後、圃場内で越冬罹病株が発生すると考えられるため、圃場を観察し、越冬罹病株の発生を認めた場合は、速やかに除去する。
- (2) 中晩生品種では、3月下旬以降に本病が伝染しやすいため、定期的に防除を行う。

#### 【共通】

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (2) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準(収穫前日数等)を遵守する。